
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時05分）

◇ 渡 辺 文 彦 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、渡辺文彦君。

（2番 渡辺文彦君 登壇）

○2番（渡辺文彦君） 通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

私の一般質問は2つございます。いずれも地方創生に対する町の取り組みについて、予算及び施策について、町長に伺うものでございます。

平成27年度は、国により地方創生に対する総合戦略の取り組みを各自治体において作るよう求められ、当町においても総合戦略が作られてきているわけではありますが、未だに完成された形態にはなっておりません。一日も早く完成され、町に活力が取り戻されることを望むところであります。

さて、平成28年度に、まさに具体的に当初予算が組まれる時期になってきているわけでありまして、町長は、11月の広報まつぎきにおきまして、町再生の初年度になるという認識をもって予算編成にあたりとおっしゃっております。

行政の施策が予算の執行をもとに行われるのであるならば、28年度の予算には地方創生に向けた具体的な措置が施されていなければならないはずであります。

町長は、広報において職員一人ひとりが町の将来を考え、町民の皆様の意見、要望に応える予算編成を行い、その提案を積極的に採用し、従来の枠にとらわれることなく予算を重点的に配分するとおっしゃっています。この点について2番の地方活性化の問題を含めて町長に今後の取り組み、その方針を伺いたいと思います。

壇上からの一般質問はこれにて終わります。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 渡辺文彦議員の一般質問にお答えします。

1. 平成28年度の当初予算の編成について。「町長は、広報まつぎき11月号で28年度の当初予算編成にあたり、町再生の初年度にあたりという認識のもと、魅力あるまちづくりを積極的に展開する予算編成をすると述べているが、その内容を問う」でございます。

平成28年度予算については、現在は1次要求書が提出された段階で、今後、査定作業を行いながら編成していくことになります。通常ですと1月下旬までには作業を終了し、2月には皆様にお示しできるようになります。

このような状況ですので、現段階で内容について具体的に回答することはできませんが、編成にあたっては広報に書いたとおり、全庁一丸となった魅力あるまちづくりを積極的に展開できるよう、4つの重点施策を職員に示しました。

1点目は「平成の花とロマンのふる里づくりの推進」で、これは魅力ある町づくりであり、「日本で最も美しい村」登録資源の持続性確保に向けた取組をすることになります。

2点目は「人口減少対策への取り組み」で、ICTの利活用、地域産業の再生や創業に対しての支援・育成をするものでございます。

3点目は「防災減災対策事業の推進」で、これは従来通り官民協働で防災力の強化を図っていくことになります。

4点目は「社会保障の取り組み」で、子育て支援、健康長寿（社会参加の機会創出など）の取り組みを実施する事になります。

これらを展開することで、総合戦略を具現化することに繋がっていきますので、今後続いていく編成作業の中で反映させていこうと思っています。

2. 地域経済の活性化について。①「当町も参加している「日本で最も美しい村」連合は、経済的自立を事業の中心に据えているが、当町においてはいかなる形で、それを具現化するのか」についてであります。

平成25年度に加盟いたしました「日本で最も美しい村」連合では、町村の人口減を食い止めて、持続可能な「最も美しい村」を作るために、地域経済の自立、住民の自主的参加、地域資源を未来にの3項目を上げ、特に地域経済の自立としては、入りを増やすための滞在型ツーリズム、出を制するために自給圏でお金が回る仕組みを掲げております。

私はこれまで第一次産業である農林漁業を土台として、それらを観光と関連づけて町を活性化するという「全町まるごとふる里自然体験学校」の体験型ツーリズムを推進しておりますけれども、松崎町が滞在型ツーリズムのモデルとなるように今後も積極的に進めてまいりたいと思います。

また、第一次産業の振興のために、農林水産業の基盤整備や後継者育成対策、6次産業化の推進を図り、雇用の場と産業を創出してまいりたいと考えております。

なお、今後、空き家を活用したインキュベーション施設整備による創業支援や自然エネル

ギーの利活用についての検討も進め、経済的自立を図ってまいりたいと考えております。

②「重点道の駅に指定された三聖苑の活用のあり方、及び依田家の活用方法について」でございます。

国は、「道の駅」の機能強化を図るため、地域活性化の拠点となる先駆的な取り組みを重点「道の駅」として選定し、重点的に支援することとしており、「道の駅」花の三聖苑を含む伊豆半島の8つの「道の駅」は、伊豆道の駅ネットワークとして、2月に重点「道の駅」全国35箇所のうちの一つとして選定されました。

現在、国土交通省沼津河川国道事務所が事務局を務める伊豆道の駅ネットワーク協議会の中で、8駅全体として、①統一的な観光情報の発信、②道の駅における観光総合案内、③インバウンド観光の促進を進めており、「道の駅」花の三聖苑の個別の取り組みとしては、トイレの外国語標記や外国人対応の環境整備、基礎機能を充実させるための再整備計画を策定することになっております。

花の三聖苑の再整備につきましては、「道の駅花の三聖苑」の未来を考える会の皆様と施設の将来構想について議論しているところでございます。

なお、依田家住宅の活用につきましては、道の駅「花の三聖苑」と連携して、那賀川を含む一帯を文化的な拠点として利活用が図られることが期待されていることから、NPO法人伊豆学研究会とも連携を密に取り組んでまいりたいと考えております。

③「長八誕生200年祭で各種の取り組みが催されたが、その成果を問う」についてであります。

2015年は入江長八が生まれてから、200年の記念すべき年となり、町では伊豆の長八生誕200年祭実行委員会を立ち上げ、各種の事業を進めおります。

まだ、全ての事業が終了しているわけではございませんので、実施済みの事業につきましては、その結果を回答させていただきます。

200年祭としての大きな企画は、東京都武蔵野市吉祥寺美術館、菊川市常葉美術館で開催いたしました巡回展で吉祥寺美術館では43日間で延べ1万4416人（1日当り335人）、常葉美術館では、27日間で2529人（1日当り93人）の来場者がありました。なお、巡回展につきましては、12月13日より伊豆の長八美術館で開催することになっております。

この他、SBSテレビにおける記念番組の放映や伊豆の長八ビジュアルブック、生誕200年記念フレーム切手の発行などにより、県外、県内の皆様に長八や漆喰鰻絵、松崎町についてPRすることができました。

なお、伊豆の長八美術館では、第16回全国漆喰鰻絵コンクール入賞作品展、全国漆喰鰻絵コンクール最優秀賞作品展、全国鰻絵写真展を開催いたしております。

また、長八シンポジウムや長八ゆかりの地を訪ねて、長八検定、長八作品保存会による長八図録、生涯学習教室、松崎小学校ものづくりクラブによる漆喰鰻絵制作などにより、町民の皆様に長八翁や漆喰鰻絵に対する理解を深め、漆喰鰻絵を後世に伝えるよう、事業を実施してまいりました。

今後も、長八翁や翁の残した漆喰鰻絵を、地域の財産として守り、普及するとともに誘客につなげてまいりたいと考えております。

④「伊豆縦貫道建設に伴う残土を利用して埋め立て土地利用の活用を図る計画がある様だが、そのビジョンを問う」についてでございます。

ご質問の場所は、那賀バイパス対岸の南郷鮎川地区の農地5ヘクタールであります。現在の耕作状況は一部で水田が耕作されているだけで大半が未耕作状況となっております。

そこで、この一団にまとまった農地を有効的に活用するためにはどうしたらよいか、静岡県や国土交通省とも協議し、伊豆縦貫道の建設発生土20万m³の埋め立てによる農業基盤整備を行い、優良農用地を創出しようとするものでございます。

この構想により創出された農用地の土地利用計画ですが、大規模施設園芸や畑地、樹園地などの農用地利用以外にも一部を非農用地として公共的な施設整備に充てることも可能ですので、土地所有者や耕作者の皆さん方の意見も聞きながら、慎重に利用計画の検討を進めていく考えでございます。

以上でございます。

○2番（渡辺文彦君） 一問一答でお願い致します。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○2番（渡辺文彦君） 私は今28年の当初予算についてお伺いするという事で質問をしたわけでありまして、先日、全員協議会において第5次総合計画が示されているわけでありまして、この中で示されたことは来年以降、再来年以降の基本の予算の大枠になるものだと私は理解しているわけでありまして、その中で今回このことについて私が問うのは、この地方に関して、地方活性化に対してどのような予算措置が取られているかということを確認したいわけでありまして、概要、第5次総合計画の内容を見ると、この地域活性化に対する予算措置というのがほとんど見当たらないんじゃないのかなという危惧があるわけですが、その辺についてと、もう1点、このあいだ全員協議会の中でもある議員からそう

という問いがあったんですけれども、いま総合戦略が練られているわけですから、その総合戦略をどんな形で来年の予算の中に反映していくのか、その辺も含めて回答をいただきたいなと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 28年度の予算編成についてはいま行っている最中だというようなことは冒頭でご回答をさせていただいたかと思います。

総合計画実施計画は、過日全員協議会でお示しさせていただきましたけれども、当然それらの年度ごとのものは予算に反映すべく、当然新年度で予算に反映すべくいま措置をしております。その中で、子育て支援の部分あるいは高齢者対策あるいは産業の振興の中で観光ですとか、あるいは農業ですとか、そういう部分、あるいは安全対策の面、そういう部分も当然盛り込んだ中で予算が組まれておりますので、これより小さい、先ほど申しましたけれども、朝の行政報告でも申し上げましたけれども、このお示しした実施計画の中にも当然入っていない金額の低い部分が入っていないものもありますので、それらを総合的に組んで予算ということで、いま準備をしているところでございます。

それから、総合戦略の関係につきましては、当然総合計画という町の全体の計画がありまして、その中で総合戦略というのは、雇用を図るですとか、あるいは外からの移住定住を図るですとか、あるいは子育て支援をするですとか、あるいは連携を図るとか、県の戦略に例えば、安心・安全な防災面の関係の強化もしていくということですので、当然総合計画と重複している部分もあるわけでございまして、新たなものも当然あるということでございまして、まだまだ総合戦略の方がいま策定をしている最中ですから、それらを踏まえながら、予算も反映できるものは反映させていくということで、いま進めているところでございます。

○町長（齋藤文彦君） 予算についてですね。ちょっとこういうふうに予算ができるということとをちょっと総務課長の方から説明してもらいます。

○総務課長（山本秀樹君） 先ほど町長が答弁したとおり、いま現在は一次要求書が出た段階ということで、11月末で締め切りまして要求が出揃ったところになります。これから議会があけてから1週間から10日くらいかけまして、各課とのヒアリング等を行いながら予算を作っていくというような形になりますが、いま現在は予想収入に対しまして事業費の方が約4億数千万円オーバーしているというような状況ですので、査定の中でそれぞれ折衝をしながらその辺を調整していくというような形になります。

各課の要求につきましては、当然この総合計画の事業等は盛り込まれています。28年度に

予定されているものは盛り込まれてきているというような形になるわけです。ただ、町長の方の編成方針を踏まえまして、まだまだ総合計画だけではやっぱりなかなか町の窮地を救うような形にはならないのかなという感じもしていますので、場所によっては、担当課の方に差し戻して新たな事業の執行を計画させるなり、そういうような作業もしなければならぬのかなというように思っています。

いずれにしても、今後査定を総務課の方でしまして、その後、町長、副町長を交えて再度査定を経て、1月末くらいまでには予算をまとめていきたいと思っております。

○2番（渡辺文彦君） 町は今年職員をいろいろ研修に参加してもらっているような勉強をさせていただいて、いろいろな提案を受けようということが進められてきて、それを予算にも反映させるということを町長はおっしゃっているわけですがけれども、その辺を具体的に職員の中からこんなものにした方がいいという具体的な提案があったらその辺をお伺いしたいんですけれども。

○企画観光課長（山本 公君） 今年度予算で11グループに分けまして、日本で最も美しい村あるいは先進的な取り組みをしている地域に視察研修をして、それらを町の方の戦略というんですか、施策に反映させていくということで今回実施をさせていただいております。

広報なんかでも何回か行った時の状況をお示しさせていただいておりますけれども、当然いま戦略を策定していく中で、それらの先進的な事例を見た中で、松崎町として役に立つもの当然それらを・・・、全て同じようにはできませんけれども、松崎町としてどういう形でやっていけばいいのかということを考えながら提案として上げていただいているものもございまして、それらについては、また予算の中で当然反映がされてくるものもあるかと考えております。

○町長（齋藤文彦君） 全職員が「日本で最も美しい村」連合に視察に行つて来いということいろいろ行って、いろいろ感じたことがあると思うわけですがけれども。私は、この予算を作るにあたっての重点施策4つがありますけれども、この中で各課に1つ各課の特徴を作つて来いということを言っていますので、それなりの視察とか何とかの感じたこととかいろいろなことが予算に反映されるのではないかなと。1回で予算に反映されるというのは非常に難しいと思いますけれども、そのようなことができるのではないかなと思っています。

また、ビルドアップミーティングでそれぞれの行って来た反省会とか、いろいろ話し合いをしていますので、そのようなことの中から新しい予算と言いますか、今までとは若干違った予算ができてくるのではないかなと思っていますところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 副町長の方はいいですか。補足はありませんか。

渡辺君、予算編成の一つの流れというのは、後で資料で作ってもらって事務局の方から皆さんに配付いたします。

質問を続けてください。

○2番（渡辺文彦君） 予算編成はまだ当然今行われているわけですから、具体的にこれだという数字は示されないのは、私も当然承知しているわけでありましてけれども。ただ、いま来年の予算はもうすぐ年が明けたらもう出さなければいけないわけですね。その中に職員の意見を反映して重点的に配分するということが課されているわけですから、重点的に配分された・・・、どの辺が重点的に配分されているのか、配分されていかなければならないのか、その辺の確認をしたいわけでありまして。

私は、町の今の予算編成は非常にバランスが取れていい予算編成になっていると思います、総合的に考えて。福祉に対しても防災に対しても、町民の満足度は高いような評価がアンケートでは出ていると思います。

ただ、地域の活性化、活力とか賑わいに対する意見は割と少ないように私は判断しています。そこはやっぱり町がいま重点的に取り組まなければならない一番のポイントはそこではないかという気がするわけです。そこはどこに繋がるのかというと、地域の活性化ということだと思っております。

この間、ある議員と話をしたら、地方の減少が、地方の人口減少が起こってるのをすごく問題にするけれど、そんなのは全然構わないんだと。人口は減れば減ったようにその地域は対応していくんだから、そんなことは問題ないよという意見があったわけですがけれども。それに対してどうも自分は腑に落ちないところがあるわけですがけれども、町長、そうですね。人口減少は町にとってどういうデメリットがあるんですかね。どういうふうに考えますか、人口減に対して。

○町長（齋藤文彦君） 人口減というのは、町自体が縮小することですから、非常に大変なことだと思います。先ほどの長嶋議員の時に言いましたけれど、やっぱり人口が減るということは、何と言いますか、生産年齢の方が減るということで、そうするとどうしても税収が減ると。そして益々小さくなっていくというようなことが一番厳しいのではないかなと私は考えています。

○2番（渡辺文彦君） いま私が言った人口が減っても何とかなるよという意見は、たまたま話をした議員ばかりではなくて、新聞等でもそういう意見を述べられている学識経験者もお

られるわけです。地方は人口減なら人口減でもそれなりの対応ができるんだということ
を・・・、やっぱりそれは成り立つとは思うんですけども。私たちの立場として、人口が減
ってもいいよということはやっぱり言えないと思うわけで、そんな中で人口減を食い止める
のは何かと言えばやはり地域の産業振興しか基本的にはあり得ない。ここに雇用を生んで、
ここで所得を上げていくということしかあり得ないということだと思います。

そういう中で、町の交流人口に対していろいろ棚田とか、長八だとかに対していろいろ取
り組みがされているわけでありましてけれども。ここに町が作った観光宿泊数とか、観光流動
数、交流数の推移が示された表があるんですけども、平成20年から21年、180万人あった宿
泊者が120万人、いきなり5万5000人落ちています。交流人口におきましては、東北大震災と
いうこともあったんですけども平成22年から23年で一気に落ちている。それから回復して
おりません。

町は、かつて恐らく同じような危機感を持って予算の中で対応してきたと思うわけす
けれども、人口・・・、その宿泊数も交流人口も決して増えていないんですね、数字として。

今やっているんだ、やっているんだといくら言っても現実の数字がダウンしているわけ
です。ここをどうするかということですよ、問題は。これをどういうふうにしたら歯止めし
ていくかということをやったり真剣に問わなければいけないはずなのに、これをやっていま
す、あれをやっています、だから、もう少し経ったら結果が出ますといったら、また10年後
同じようなことが繰り返されているわけですよ、きっと。

いま町長が言われているように、重点的に打たなければならない対策というのが恐らくあ
るんじゃないかと思うんですね、今。

優先順位を付けるならば、最優先に上がる事項というのがあるんだと思うんです。その辺
をもっとみんな精査して予算配分をして、そこに事業を特化していかなければ、なかなか活
性化というのは難しいのではないかと・・・。バラマキと言ったら失礼ですけども、均衡的な
予算配分でやっても町は恐らく再生していかない。このままずるずる人口減に陥って、みん
な八方ふさがりになってあきらめばかりが増えるんじゃないかという感じがするわけす
けれども、もっともっと踏み込んだ具体的な施策を提言したいんですけど・・・、提案して
いただきたいんですけども、その辺に対して・・・。

○町長（齋藤文彦君） 悲観的な話ばかりしますけれども、そのためにこの重点施策で、こう
やって4つの重点施策を4つ決めて、流動人口を増やして、雇用を促進しようやっているわ
けですから、ちゃんと見ていてくださいよ。

○副町長（佐藤 光君） ただいま予算編成等につきましてのバランスがいいというような渡辺議員からのお話もございましたので、そういった全体な予算編成につきましては、ある程度町民の皆様のご支援と言いますか、ご指示もいただいているのかなとは思いますが、ご指摘のとおり、地方創生戦略という形で加速度的にそういった成果を出していかなければならないという状況の中で、やはり選択と集中ということがやっぱり必要になってくるかと思えます。そういった中で、先ほど申しましたように予算編成にあたりましては、4点を重点施策という形で、この選択と集中という形で、こういったものを集中的にやってみましょうと、こういった中でも、また総合計画の中には謳われていないようなものを総合戦略の中で盛り込みまして、そういったものを合せて時期に叶った政策を展開していくということが必要だというふうに思っています。

そのための一つの学習の機会ということで、美しい村の各地で行われている先進的な取り組みも職員の方で勉強してきておりますので、そういったものも盛り込みながら、次年度以降展開していきたいなと思えます。

やっぱり1年、2年という形で答えが出るというものでもないかと思えますけれども、加速度的にやっていかなければならないことはやっていかなければいけないと思えますので、それは、来年度速やかに対応していきたいなと思えます。その代表的なものが、この1点目に挙げております美しい村の登録資源の持続性確保という形で、村あるいは町の魅力を高めていくということがやはり地道な活動ではあるかもしれませんが、非常に観光資源を磨き上げるという意味でも必要になってくるのかなと思えます。それに合わせて、産業振興ということをやっていければいいのかなと思っておりますので、こういったものを重点的に展開していくということで、ご理解いただければなと思えます。

○総務課長（山本秀樹君） 実際に査定等を行う立場から説明をさせていただきます。要は、いろいろこういう4つの項目とかありますが、これに共通することは、先ほど議員がおっしゃられたとおり、町に賑わいを創出する事業、それに繋がるような事業を予算化していくというような考え方のもとに行きたいと思っています。

先ほど説明したとおり、あるところにはもう一度差し戻して、再度検討しろよというようなこともあり得るということを使ったのはそういうことで、「ここはこういうことも考えられるんじゃないか」と、「この辺についてもう一回事業を考えて」というような形で、それぞれ担当課の方にもう一回差し戻してプランを上げさせるとか、そういうことまでもやって、何しろ賑わいを創出するようないろんな事業を組み込んでいきたいなと考えております。

す。

○2番（渡辺文彦君） 町長は、これからの取り組みを見てくれということをおっしゃるわけですが、実際町長が就任されてからずっと交流人口も宿泊数も落ちているわけですね。現実には。

だから、その辺が、したいはしたいんですけども、やっぱり何か対策がちょっと足らなかったのか、欠けているんじゃないかという危惧がされてならないわけですね。その辺で、今年町長が重点的に資金を配分するみたいなことを言われているもので、すごく期待して、そういう意味で、どんな予算ができるのかなという期待を込めて、ぼくもこうやって質問をしているわけですが、これ以上町が衰退しないための政策を打っていただきたい。ぜひ打っていただきたいということで、確認しているわけですが、。。。

ただ、今までの数字が示していることに対する分析がやっぱり十分されないとなかなか。。、ただ「これをやります」「あれをやります」と言っても効果は出ないのかなという気はしています。

そういう意味で、2点目へと繋がるんですけども、今年長八の祭りが行われたわけでありまして、長八の祭り、東京では1万人以上の方、掛川では4000人ですか、だいぶお客さんがみえられたわけですが、実際にあちらに行って、いろいろ関わった人に話を聞くと、「東京は良かったよ」「掛川も松崎のことを良く知っている人が来てくれて、なかなか好評だったよ」という意見を伺っています。そういう意味では、それなりの効果はあったんだなということは感じているわけでありまして、ただ、そうは言いながらも、やっぱりほかの町民に「この200年祭はどうか」と聞くと、「何をやってたの」という現実なんですね。どこに効果があったんだろうかなという、そういう意見があるわけです。そういう中で、教育委員会も子どもらに長八の歴史とか、またいろんなことを取り組みをさせて長八になじんでもらう努力をしているとは言われているんですけども、まだまだその辺の努力が足りないのかなと。。。ある長八の関係者に言われますと、町民の長八に対する理解がまだ弱いと、もう少しなんか町全体で盛り上げてもらいたいという意見があったわけです。

この後、松崎で展示会が行われるわけでありまして、そういうことを考えると、一応入館料町民500円となっているわけですが、一定期間区切って無料にするとか、もしくはもっと料金を下げて町民に利用してもらうような形態で長八をもっと知ってもらう機会を作ってもいいのかなと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 反問権をいただいているから、ちょっと質問するけれど、長八美術館

へ何回か行きますか。

(渡辺議員「ぼくは2回ほど・・・」と呼ぶ)

○町長(齋藤文彦君) ぼくは何回も行って、鶴の間の千羽鶴と浄感寺の八方にらみの龍、あそこへ行くとやっぱりこれはすごいなと私は思うわけですがけれども、町の皆さんも町がやるんじゃなくて、自分たちの私事にするように、町の皆さん方も長八美術館に行った人はものすごく少ないと思うわけで、だから、ぼくも東京に行って、東京めぐりをやって、伊豆の長八の偉大さというのを反対に何と言いますか、感化されてきたようなところがあるわけですがけれども、松崎の皆さんは役場がうんぬんということではなくて、もうちょっと積極的に長八に関わっていくようにしてもらいたいと思っています。

そして今回は、「子どもの長八の踊りをぜひやってくれ」ということで、スタートしたわけですがけれども、それと三聖まつりの踊りとか、もっと小学校と皆さんを包み込んでいて、町の中に入れていきたいなと思っています。

ただ、本当に長八さんが外に出て行って、ぼくも感じたことは、やっぱり長八の魅力というのは、やっぱりすごいものだなと痛切に感じますので、これを本当に町の中に広げていて、町の中から長八を盛り上げるようにしていければいいなと思っています、いつも。

それで、いろいろ長八美術館の中でコンサートうんぬんの話をいまちょっと考えているわけですがけれども、あの中でいろいろやっていくと、皆さんに、町の人に来てもらって長八さんを知ってもらおうというようなことをやっていければいいなと思っていますところなんです。

○企画観光課長(山本 公君) 事業の内容につきましては、町長の方が先ほどご答弁させていただきました。外に向けては、そういう巡回展を通じまして長八あるいは松崎町を知っていただくといういい機会になったと思っていますので、今後それらを見た方が、また松崎町の方へ足を運んでいただければと思います。

今回やった巡回展もあれだけの作品が集まるということはもうないんじゃないかというようなことの中でやったものですので、そういう意味では非常に効果があったかなと思います。

それから、町内の人との関係ですね。何をやってたのかとか、あるいはもうちょっと全体でというお話がありましたけれども、町長も述べましたように、町民の皆さんがやっぱり自分たちでこういう素晴らしい人がいたんだというようなことの認識がない限りそういう方の良さというのは伝えることができないでしょうし、大事にしていくこともできないのかなと思っています。

そのために、長八作品保存会の皆さんがいろいろパンフレットを作っていたりとか、あるいは子どもたちに漆喰鰻絵をやっていたりとか、そういう部分で関わっていただいていますので、今後とも町民の皆さんがそれらを誇りに思って守っていくというような形に繋げていければと思っています。

それから、美術館の入館料については、町民の方は無料になっていますので。

○2番（渡辺文彦君） 私がここであえて長八の問題、まだ途中・・・、事業の途中で申し上げたのは、来年美しい村のフェスティバルが当町で予定されているわけですがけれども、町長も先ほど答弁の中にあつたわけですがけれども、事業が一過性に終わらないで、継続できるような形にもっていくという意味で、この長八で行われたいろんな事業に対しての成果なり課題なりがあると思うわけですね。それを次の来年の美しい村のイベントにいかしていただきたいという意味で、あえてここに途中の事業に対しての意見を差し込ませていただいたわけがありますけれども。

それに関わりまして、それと同じような立場ですがけれども、三聖苑に依田家をどういうふうに取り込むかということが大きな問題になるのかなと私は考えています。地域資源として長八もすごく重要な資源であります。同時に、依田勉三という方が帯広を開拓したという歴史は帯広の方にとってみると非常に大きな歴史になっているわけですね。松崎の町民が感じる以上に大きな歴史になっているとぼくは感じております。そういう施設を町が持っているということは、町にとって大きな誇りだと思えるんですけども、それは単独ではいかせない気がします。

そのなかでやっぱり町長もおっしゃっているとおり三聖苑との絡みの中で進めていくのが一番ベターだと思うわけですがけれども。その三聖苑に関して、この春、三聖苑をどう活用するか委員会が立ち上がったと思うんですけど、その後の活動が見えてこないんですけど、その辺をちょっと紹介していただきたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 道の駅花の三聖苑につきましては、重点道の駅ということの中で選定を受けまして、いま伊豆半島の中の8つの道の駅の中の一つということでやっています。

統一的にやっていくものあるいは個別にやっていくものというようなことで分かれておりますけれども、そういう中でいま進めております。

いまお話のありました花の三聖苑、道の駅花の三聖苑の未来を考える会ということで、町民の有志の方にご参加をいただいた中で、いろいろ三聖苑の施設のあり方というんですか

ね。未来像というか、イメージというような、どういう形であったらいいようだとか、あるいは今ある施設をどのようにうまく活用していけばいいのかというようなことについてをこれまで準備会を含め3回ほど会議を進めています。

その中で、花の三聖苑はこういうふうにしていけばいいんじゃないかとか、自分たちはこういうふうに関わっていきたいよとか、そういうものを出した中で、三聖苑の更なる整備を進めてまいりたいと考えておりますので、全体的にまとまっている状況ではございませんので、いまこうだとは申し上げることはできませんけれども、産業の振興ですとか、活用についてもいま協議をしているところでございます。

○町長（齋藤文彦君） 今の花の三聖苑に対しては、ものすごく私は不満で、もうちょっと大改革しなければいかんなと思っています。

ちょうどこの依田住宅と道の駅を含む一帯を整備するということは、これからNPOの皆さん方と協議会を立ち上げて話し合っていくことになると思うんですけども、やっぱり2つが重なるとすごい破壊力が増すと思いますので、ぜひ花の三聖苑と依田住宅とをうまく結び付けて、あの辺を本当に松崎の何といいますか、源の源の源ですから、あそこから松崎町の活性化を図っていくような感じにすればいいなと思っていますところです。

○2番（渡辺文彦君） いま企画観光課長からお話があったようにいろいろと取り組みがされているみたいですが、その件に関しては来年の予算の中にどのような形で反映されていくんでしょうかね。その辺だけ、簡単で結構です。

○企画観光課長（山本 公君） まだ具体的にこういう形で、こういうふう整備をするところまでまだ出てきておりませんので、その協議がまた進んでいく段階の中で予算対応はしてまいりたいと考えています。

○2番（渡辺文彦君） 地方活性化の4番目にあたりますけれども。先ほど町長が、あれは盛土による土地利用を考えているということでおっしゃっているわけですが、その言葉に対して、私は大いに賛成するわけであります。ただ問題は、そこをだれがどういう形で担っていくのか、耕作していくのか、どういう建物を構築してどれだけの施設を入れていくかという道筋がなかなか見通せない。その辺に対してこれからも委員会を立ち上げて協議していくらしいんですけども、この辺はどうですかね、道筋はたちそうですかね。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） この町長がご回答した内容でございますが、まだまだ現段階で立ち上がったばかりという状況でございます、現段階では事務レベルにおいて国土交通省、更には静岡県の農林事務所、そして土木事務所松崎支所という形で、現段階で事務レベ

ル協議を行っているわけでございます。

今後、伊豆縦貫道の発生土を利用して南郷鮎川地区の5ヘクタールを埋め立てして、優良農地を創生すると回答しましたけれど、どのような利用にするのかどうか、これは今後じっくりと煮詰めていかなければならない話でございます。もちろん担い手の育成についても同時進行で考えていかなければいけない話でございますので、現段階では申し訳ございませんが、詳しい内容等については、まだまだこれから十分に計画をもって協議していく段階であるということだけをご理解いただきたいと思います。

○副町長（佐藤 光君） こちらの計画につきましては、農業基盤整備ということで私の専門でもありますので若干コメントをさせていただきますと、現在の状況を耕作がされていないという状況が、そもそも水田利用という形で地下水位が高いような状況もあって、なかなか米作りには向いていないようです。いわゆる農地の等級で言いますと劣等的な土地に分類されてしまうのかなと思います。そういったものを今回たまたまそういった伊豆縦貫の建設残土があるということで、そういったものを有効に活用しながら、畑作利用に転換ができないかというのが一つ考えとしてはあろうかと思えます。水田を継承するということがありますけれども、水の問題もありますので、畑作に転換ということになるかと思えます。そういう畑作に転換する中では、やはり松崎の比較要因といえますか、競走要因にある作物を導入するということがやはりその換金性が高くて、収益も上がるという意味でやはり最適なんだろうなと思えます。

そういう中で、桜葉であったりとか、桑であったり、あるいは最近、この間も西伊豆町さんにちょっと勉強に行かせていただいたんですが、おかのわさび等も比較的需要もあって収益性も高いということをお伺いしておりますので、そういったものを新規導入作物という形で導入するというのもあろうかというふうに思います。

いずれにしろ、あそこで収益性の高い作物を作って、一つの生業が成り立つような経営計画を立てながら、土地利用を有効に活用していくということになるかと思えます。

至近の例で申しますと、静岡市の清水地域では、これは規模は全然違いますけれども、新東名の残土を活用しまして、優良農地であるみかん園を区画整理しまして、若い担い手も育っているということで、全国的にも優良な事例になっています。

そういった意味からすると、かなりスケールは10の1くらいになるかもしれませんが、少し大風呂敷のような形になるかもしれませんが、ある意味松崎の新しい内陸のフロンティア的な発想で、あと地域が今後多様に考えていくということも可能かと思えます

ので、非常に可能性があるというような意味でいろんな土地利用を考えていくべきかなとは思っています。

ただし、農地利用になりますと、日照の問題とか、いろいろ問題もあろうかと思っておりますので、そういった意味で適地適作の比較優位な作物を検討していくべきかなと思っております。

○議長（稲葉昭宏君） 渡辺君、申し上げます。時間が5分ですが、延長しますか。

○2番（渡辺文彦君） まとめます。

一応私は、今回予算編成と地方創生との絡みの中で、いくつか自分の考えていることを町にお尋ねしたわけですが、基本的には、町は予算をもってその行政を担って、それを町民に還元するというのが使命だと思っています。そういう中で、町民が行政に任せてよかったと思えるような施策が具体的に展開され、町民の生活が豊かになることを具体的な形で示していただけるような予算編成を望むものであります。

私の一般質問はこれで終わらせていただきます。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で渡辺文彦君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 2時51分）
